

【活用にあって】

次の各新聞記事を読んで、答えを確認しましょう。

大人の人に使っているか聞くのも楽しいですよ。

美濃ことば 飛驒ことば

● 意味 しんぞこ

● 解説 昔と違って今は休耕田や耕作放棄地が増えました。それでも、「守」だけはしなげればなりません。「草刈りしたらえらなっちゃった」

「えらい」は、今でも岐阜県内で日常的に使いますが、東京でこう言つと、「何、偉ぶつてるの」と言われます。実は、方言の「エライ」は江戸時代初期からある上方方言で、共通語の「偉い」は、幕末頃からの新しい意味なのです。

「エライ」の語源は「苛し」。「いらいらする」の「いら」です。これが、程度の激しいさまを表す表現となり、苦痛を表すようになりました。

(岐阜大教育学部教授・山田敏弘)

えらい

県内全域

美濃ことば 飛驒ことば

● 意味 私たち

● 解説 十月三十一日に紹介した「わっち(私)」を、今でもお使いなのは七十代以上の方が主です。岐阜の若い人はこう言います。「うちんた、テレビみーへんし」

関西で多く使われる「うち」が、西濃を経て全県的に広まって使われています。ただ、複数では、関西の「いら」ではなく、「ーんた」を付けて「うちんた」と言つところが岐阜流。岐阜は他所から受け入れつつもアレンジするのがうまいようです。

単数の「うち」も、今では女性を中心に若い人の自称詞として頻用されるようになりました。

(岐阜大教育学部教授・山田敏弘)

うちんた

全県

美濃ことば 飛驒ことば

いんね

東濃、中濃

●意味 いいえ

●解説

多治見市で、かつて方言番付表が作られたことがあります。その横綱が「のう」と並んで、この「インネ」です。

「今日はさぶうのお」「いんね、まだ序の口や」

語源は「否いな」で、中世にこれが「いや」となる一方、方言では、「いんにゃ」「いんね」となりました。

「いや」と言下に否定されるより、「インネ」の方がやわらかく感じます。方言には人を和ます効果があります。恵那市明智町でも方言番付表をもらいました。町おこしに県内各地で作ってみてはいかがでしょう。

(岐阜大教育学部教授・山田敏弘)

美濃ことば 飛驒ことば

いてる

岐阜、西濃

●意味 凍る

●解説

最近では温暖化で少なくなりましたが、昔はよく水道管が凍りました。「水が出んと思ったらいててまっとなる」。慌てて風呂の残り湯で溶かしたものです。

「いてる」自体は平安時代からある言葉で、現代でも「凍てつく」という言葉に面影をとどめています。飛驒の「しみる」と県内を二分します。

揖斐の谷では、雪が固まり上を歩ける状態を「いてごり」や「いてがり」と言っそうです。普段は歩けない場所を歩くと、さぞ風景も違って見えたことでしょう。方言を聞くと故郷の光景が目に見えます。

(岐阜大教育学部教授・山田敏弘)